完全にハマってしまった、トアールお話

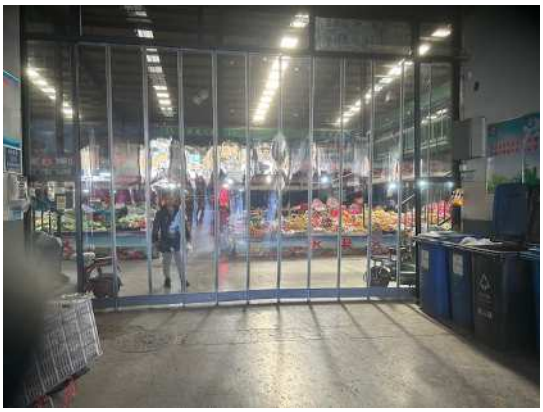
中国へ来てはや３月経過。生活には慣れてきましたが、中国語にはなかなか慣れません。ネイティブにナチュラルスピードで話をされると完全にお手上げです。「太原に秋はない。」と聞いていたのですが、１１月から突然寒くなりました。冬の到来、朝は毎日氷点下です。

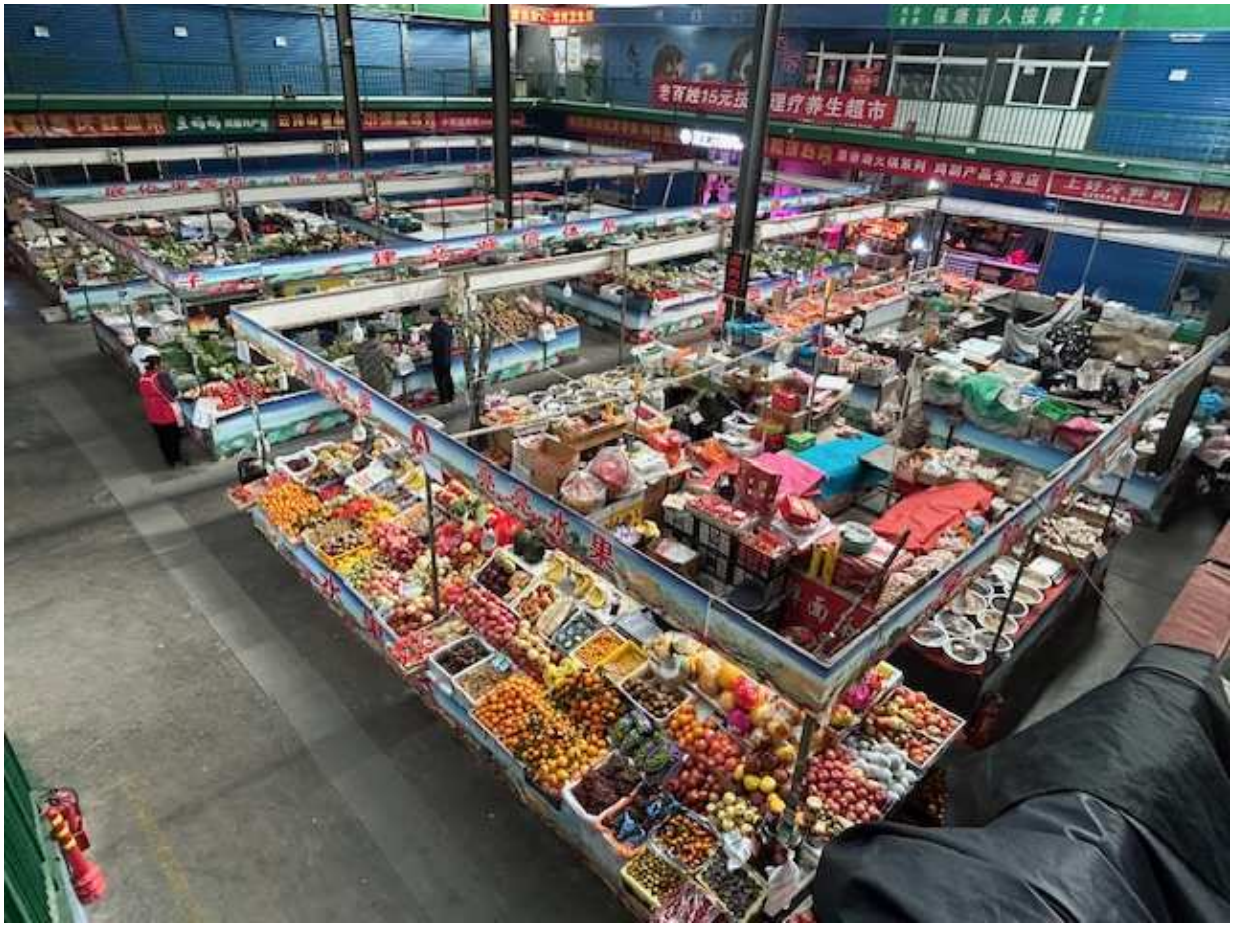
月	火	水	木	金	土	日
		１	２	３	４	５
６	７	８	９	１０	１１	１２
１３	１４	１５	１６	１７	１８	１９
２０	２１	２２	２３	２４	２５	２６
２７	２８	２９	３０			

今日はある料理にはまってしまい、昼ごはんに通い詰めてしまった話です。「許西農貿市場」は山西大学北門から徒歩５分のところにあります。日本の市場とたいして変わりはありません。ただ、およそ一見の外国人観光客が訪れるような雰囲気の場所ではなく、地元を熟知している人間のみが買い物を許されるような雰囲気ありありの独特な場所です。広さは学校の体育館の程度、野菜・果物・肉類等が処狭しと並んでいる普通の市場です。その中の一角にある麺料理屋（「浑源凉粉」という名の店)、駅の立ち食いソバ店のようなイメージの店で、席は３つしかありません。眼光鋭いオヤジが入口で睨みを利かせており、地元住民でも入店を躊躇しそうなお店です。面の種類も太麺、中麺、細麺の３種類のみ、味付けは無限でオヤジの匙加減ひとつ、値段は６元、冷たいバージョン、温かいバージョンは客の好みに合わせてくれます。私自身も初めてこの店を訪れた際の記憶はほとんどないのですが、拙い中国語の私に「こいつは何者なんだい？？？」という視線をビシバシ感じていたのを覚えています。ただし、麺は相当に美味しく、腹８分目程度のここの麺にとても満足感を覚えました。毎回、どこの食事も量が多すぎて辟易としていた私にとってここの食事は新鮮でした。次の日に訪問した際、オヤジは完全に私を覚えており、会話はなかったのですが、お互い笑顔をかわすようになりました。３回目以降は、オヤジが「どこから来た？」「仕事は何しているんだ？」「何で中国に来たんだ？」と定例の質問を投げ掛けてきました。ただし困ったことに、このオヤジ、方言丸出し、訛りが相当酷く、おまけに早口、標準語とはあまりにもかけ離れているため

に聞き取るのは困難を極めました。標準語でさえナチュラルスピードで話されると未だに聞き取りが困難な私にとって、未知の言葉を聞いているような感覚でした。しかしこれもまた勉強、ネイティブと話ができる貴重なチャンスです。身振り手振りに笑顔、紙と鉛筆も総動員し、何とかコミュニケーションを図っています。ただ、幸いにも私の話は理解してくれているようです。オヤジの話を総括すると、現在６５歳、バイクで１０分ほどの所に住んでおり、３人の子供は皆独立している？ということらしいです。昼時でもそんなに繁盛している店ではなく（ゴメンナサイ！）、人との会話に飢えている様子で、私はいいカモなのかもしれません。ただし、私が少し咳き込んだりすると、「風邪ひいたか？ここの冬は寒いぞ。服はたくさん着ろ。ゆっくり休め。」と生姜入りの温かいお湯を出してくれたりと、と人情味もたっぷりです。周囲の果物屋や野菜屋のおじさん、おばさん（自分も立派なおじさんです）とも顔見知りになり、なんとなく居心地がよく、自然に足が向くようになってしまいました（カレンダーの網掛けは１１月にこの店を訪問して昼に食事をした日）。今後、このオヤジとどんな展開になるか全く白紙ですが、こういった人間関係も大切にしていきたいと思います。

许西农贸市场





★ある日の食事（休日編）

①朝、昼（寮内）　朝、西門食堂で購入した肉まんとパン。本場の肉まんはやはり一味違う！といった感じ。普段は６時起きですが、さすがに土曜日は朝寝坊。食堂で食べるか、寮へ持って帰るかはその日の気分次第（この日は持ち帰り）。計７元

②夜（学内）　餃子定食（本場中国の餃子を堪能）。日本で食べる餃子とは何か違います（モチ美味しい）。納豆は食べたくて堪らなかったので、ネットで購入してしまいました。現地の店では納豆を見たことがありません。定食１０元＋３元くらい（納豆）

③その他　ポテチ一缶、ミカン３つ、インスタントコーヒー３杯といったところでインディアン。

１０元くらいかな？

この日の食事代合計　３０元（１元≒２０円）

①

②

Lay's乐事
无限
思乡原味
SUMIYAKI COFFEE